

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

第4回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認 (p.2)
- 専門研修の検討に当たっての留意事項 (p.3)
- 専門研修の全体カリキュラムの確認 (p.4～p.7)
- オリエンテーション (専門研修のねらい) について (p.8)
- 「基礎研修の振り返り」講義 (p.9)
- 「ピアサポーターの基礎と専門性」講義・演習 (p.10～p.14)
- 「ピアサポートの専門性の活用」講義・演習 (p.15～p.18)
- 「関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際」講義・演習 (p.19～p.22)
- 「ピアサポーターとしての働き方」講義・演習 (p.23～p.25)
- 「セルフマネジメントとバウンダリー」講義・演習 (p.26～p.31)
- 「チームアプローチ」講義・演習 (p.32～p.34)

第4回委員会後、事務局修正版
(修正箇所:紫色・下線)

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

スケジュール

※あくまでも現時点での予定となります。

青字: 前回資料からの修正点

R 3年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム検討	第1回		第2回	第3回	第4回	第5回		第6回
主な検討項目	・養成するピアサポーター像 ・検討課題整理		・基礎研修講義内容検討 ・基礎研修演習の検討課題整理	・基礎研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討	・専門研修講義内容検討 ・専門研修演習の検討課題整理	・専門研修演習教材検討、ワークショップ用資料検討		・専門研修演習ワークショップ用資料検討 ・次年度引継事項整理



R 4年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月
研修実施		基礎研修 2回 計4日間			専門研修 2回 計4日間			フォローアップ研修 2回 計4日間	
カリキュラム検討	第1回					第2回	第3回		第4回
主な検討項目	・前年度の振り返り ・講師の決定 ・フォローアップ研修演習の検討課題整理		基礎研修振り返り (方法は検討中)			・基礎研修、専門研修の反省を踏まえた検討課題再整理 ・フォローアップ研修教材検討、ワークショップ用資料作成	・フォローアップ研修ワークショップ用資料作成 ・講師の決定		・フォローアップの反省点の振り返りと年間まとめの回

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修検討に当たっての留意事項

- 第1回でのご説明のとおり、東京都の専門研修は、**障害領域別ではなく共通内容での実施**を想定している。障害領域を超えた意見交換や相互理解の充実も狙っている。
- 各障害領域の当事者が一緒に研修を受講することになるため、**各障害領域の当事者に配慮した研修とする**。それぞれの専門領域で培ってきた、いいところを持ってきて、組み立てていきたい。
- **各障害領域に共通して伝わりやすいかという視点で、必要に応じて表現の工夫が必要。**
 - ▶ 国テキストを使用しつつも、専門用語・カタカナ語については、各障害領域に共通して伝わりやすい補足説明を付ける。
 - (例①) 「セルフマネジメントとバウンダリー」という項目名⇒「ピアサポーターが葛藤しやすい状況」と副題で補足を付ける 等
 - (例②) 「リカバリー」⇒「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」
(リカバリー) 等

※各障害分野の歴史的背景や理念などが深く関係している用語について、全て置き換えるのは適切ではない。あくまで、用語は残しつつ、説明を追加する。

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 1日目①

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ●研修の全体像・専門研修のねらい ●グループワークのグラドルール 	研修事務局	10時20分～10時30分(10分)	
1 基礎研修の振り返り	●基礎研修の振り返り	・1人(岩崎委員長)	10時30分～11時00分(30分)	p.3～p.4
2 ピアサポーターの基礎と専門性	●障害特性に応じた専門性	・当事者1人(小阪委員)	11時00分～11時40分(40分)	p.5～p.10
(15分休憩)				
3 演習①	<ul style="list-style-type: none"> ●講義2の振り返り、気付きの共有 ・(例)「リカバリーストーリーを書いてみましょう」、「各々のリカバリーストーリーを聞いてみましょう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・<u>受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任</u> ・演習統括は、小阪委員 	11時55分～12時55分(60分)	p.10
(60分昼休憩)				
4 <u>ピアサポート</u> の専門性の活用	●障害特性に応じた <u>ピアサポート</u> の専門性を活かすための視点	・当事者1人(秋山委員)	14時00分～14時40分(40分)	p.11～p.17
5 演習②	<ul style="list-style-type: none"> ●講義4の振り返り、気付きの共有 ・事例の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・<u>受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任</u> ・演習統括は、秋山委員 	14時20分～14時50分(30分)	p.16
(15分休憩)				
(次のページに続きます。)				

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 1日目②

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
6【障害者】 関連する保健 医療福祉施策の 仕組みと業務の実際	●関連法、関連施策	・専門職1人(検討委員会委員等)	14時50分～15時 30分 (40分)	p.18～p.25
6【事業所】 ピアサポートを活用す る技術と仕組み	●現場におけるピアサポートの活用 方法	・専門職1人(検討委員会委員等)		p.26～32
(15分昼休憩)				
7【障害者】演習③	●講義6の振り返り、気付きの共有 ・(例)「『自分だったらこの機関(事業所)で 働いてみたい』というところがありますか」、 「自分自身が利用したことがなかったり。あ まり知らないサービスについて詳しく知るに はどうしたら良いでしょうか。情報を共有して みましょう」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計6人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、検討委員会委員等	15時45分～ 16時25分 (40分)	p.25
7【事業所】演習③	●演習6の振り返り、気付きの共有 ・(例)「労働法令や倫理規定を正しく理解し ていましたか」、「雇用する側として困ったこ とはありましたか。あるとすれば、どのように 解決していけるとお思いますか」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計4人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師 *回により変動		p.32
8 演習④	●障害者、事業所職員別講義及び 演習内容についての共有	・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精 神、身体、知的、難病、高次脳の各障 害領域から選任 ・演習統括は、講義講師	16時25分～ 16時45分 (20分)	

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 2日目①

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
9【障害者】 ピアサポーター としての働き方	●労働法規	・1人(検討委員会委員等)	10時30分～11時00分 (30分) ※障害者と事業所で 別教室で実施	p.26～32
9【事業所】 ピアサポーターを 活かす雇用	●ピアサポーターを雇用し、協働する 上での留意点 国要綱のとおりだが、「ピアサポーターを活かす」のままで良いか	・1人(検討委員会委員等)		p.42～p.55
10【障害者】 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)「労働法令や倫理規定を正しく理解 していましたか」、「雇用される側として 困ったことはありましたか。あるとすれば、 どのように解決していけるとおもいますか」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計6人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師	11時00分～ 11時40分 (40分)	p.32
10【事業所】 演習⑤	●講義9の振り返り、気付きの共有 ・(例)『ピアサポーターがいることで、利 用者に対する愚痴を言いにくくなったと専 門職がこぼしている』、『ピアサポーター がなかなか自分の意見を言わない』、『ピ アサポーターと他の職員で意見が衝突し た』、『ピアサポーターが職場を休みがち になっている』といった場合にどう対処し ますか」、「ピアサポーターと働く上での期 待/不安はどのようなことですか」	・当事者、専門職 (検討委員会委員等) 計4人* ・精神、身体、知的、難病、高次脳 の各障害領域から選任 ・講義統括は、講義講師 *回により変動		p.47、p.55
(60分昼休憩)				

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

専門研修カリキュラム 2日目②

(注)当事者とは、ピアサポーター又はこれに準ずる障害当事者をいう

項目	概要	講師イメージ	時間	国テキスト 該当頁
11 セルフマネジメントとバウンダリー	<ul style="list-style-type: none"> ●ピアサポーターが葛藤しやすい状況 ●病気や障害を抱えて働く上でのセルフケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者1人(小阪委員) 	12時40分～ 13時10分 (30分)	p.33～p.37
副題(仮) : ピアサポーターが葛藤しやすい状況				
12 演習⑥	<ul style="list-style-type: none"> ●講義11の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが自分の病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか」、「あの時バウンダリーを意識していれば良かったと振り返ることはありますか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、小阪委員 	13時10分～ 13時50分 (40分)	p.37
(15分休憩)				
13 チームアップローチ	<ul style="list-style-type: none"> ●所属機関(チーム)におけるピアサポーターの役割と協働における留意点 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者1人(検討委員会委員等) ・専門職1人(検討委員会委員等) 計2人 	14時05分～ 14時45分 (40分)	p.38～p.41
(15分昼休憩)				
14 演習⑦	<ul style="list-style-type: none"> ●講義13の振り返り、気付きの共有 ・(例)「ピアサポーターが協働するチームの構成員について考えてみましょう」、「チームにおけるピアサポーターの役割について考えてみましょう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者5人(検討委員会委員等) ・専門職5人(検討委員会委員等) 計10人(5グループ) ・受講者の障害領域に合わせて、精神、身体、知的、難病、高次脳の各障害領域から選任 ・演習統括は、講義講師 	15時00分～ 16時00分 (60分)	p.41

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

(本スライドは、研修当日のオリエンテーションで事務局より説明することを想定しています)

	専門研修 ねらい
受講者が目指すもの	<p>ピアサポーターが目指すもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ピアサポーターとしての専門性を活かした支援技術を習得し、働く上でのセルフケアができる。</u> <p>(設定理由) 障害特性に応じた専門性の活かし方を具体的に学び、支援の幅を広げるとともに、より質の高い支援力を身に付ける。働く職場で起こり得る人間関係での葛藤に対する対処方法や、<u>病気や障害を持ちながら働く上で、支援が上手くいかない時などに、バーンアウト(燃え尽き症候群)しないようにしなやかに対処する自己管理の方法を身に付ける。</u>これにより質の高いサービスの実現を目指すとともに、ピアサポーター自身の職場定着に繋げていく。</p>
	<p>専門職が目指すもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>継続的に協働し続けるための専門知識習得・専門技術を習得し、ピアサポーターの有効的雇用や配置を行うことができる。</u> <p>(設定理由) ピアサポーターが効果的にそのスキルを発揮するための職場の仕組みや働きやすい職場の仕組みを学び、ピアサポートの効果を活かす環境整備や雇用の実現を目指し、ピアサポーターの職場定着に繋げていく。</p>
	<p>協働するために必要なこと</p> <p><u>ピアサポーターと専門職がチームであることを認識し、チームの一員としての留意点や役割を知り、実践する</u></p>

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

1 基礎研修の振り返り

時間

30分

獲得目標

●基礎研修で学んだことを振り返る。

対象

ピアサポーター、専門職

伝えたいこと

講義の構成

基礎研修の振り返り

- ピアサポートの理解
 - ピアサポートとは
 - ピアサポートの有効性・強み
 - 多様なピアサポート
 - 当事者の意思を尊重するということ（障害者の権利に関する条約）
- ピアサポートの実際・実例
 - それぞれの障害領域でピアサポートが活用されている
- コミュニケーションの基本
 - 一般的な対人援助職（専門職含む）に共通するコミュニケーションの基本
 - ピアサポーターとしての経験をまじえたコミュニケーション
- 障害福祉サービスの基礎と実際
 - 障害福祉サービスが提供される仕組み、働く職員
 - 障害福祉サービスにおけるピアサポートの活用方法
- ピアサポートの専門性
 - これまでの人生経験を活かす
 - 倫理と守秘義務

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

2 ピアサポーターの基礎と専門性

時間	40分
----	-----

対象	ピアサポーター、専門職
----	-------------

獲得目標

●障害にとらわれずにありのままの自分らしく生きてきた経験がピアサポーターの専門性の基盤であることを知る。その上で、経験に基づいた「傾聴」「共感」「受容」といったピアサポーターとしての専門性を発揮し、当事者とのより「対等」な関係性を構築することで、ピアサポーターとしての支援の幅と質を高める。

<伝えたいこと>

- ・リカバリーの概念について。
- ・障害者ピアサポーターとしての専門性とは。
- ・リカバリーストーリーの大切さ（言葉にしてみること）。

出所：平成30年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（身体・知的分野））
障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究 専門研修テキスト

各障害共通言語へ

<伝えたいこと>

- ・「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」（リカバリー）の概念について
- ・障害者ピアサポーターとしての専門性とは。
- ・「経験を振り返り言葉にしてみること」（リカバリーストーリー）の大切さ

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

2 ピアサポーターの基礎と専門性

伝えたいこと

「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」(リカバリー)の概念について

講義の構成

- 「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」 (リカバリー)
- リカバリーとは、病気や障害などを完全になくすことではない
 - 必要な支援を受けつつも、障害にとらわれずに、一度きりの人生において、「こんな風に生きたい」、「こんな事がしたい」など、今一度自らの未来に希望を感じ、一歩ずつ歩いていく、その過程

<リカバリーに必要な要素の一例>

- ・自分ひとりではないと気がつくこと。
- ・自分の他に1人でも自分のことを信じ、励ましてくれる人が傍らにいること。
- ・他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられるということに気づくこと。
- ・一歩踏み出す勇氣。
- ・人の役に立てる実感を自らの行動によって得られる経験。
- ・辛くなったら弱音をこぼしても良いのだとそういう自分も受け入れること。そして、そんなときは周りの人に伝えられるようになること。

出所：平成30年度 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業(身体・知的分野))
障害者ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究 専門研修テキスト

「障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする」(リカバリー)の概念について



「自分は『うつ病』を数年前に発症。周囲の支えもあって、病気と付き合いながら日々の生活を前向きに送ろうとしている。だけど、ピアサポーターには、病気から完治した人でないと相応しくないのでしょうか？



必ずしも「リカバリー」は「障害や病気からの完全な回復」ではありません。身体障害における「機能訓練」とも異なります。障害や病気がありながらも、「こんな風に生きたい」、「こんな事がしたい」など、自分自身の人生を自分らしく歩んでいくことです。そして、その手助けとして、ピアサポーターは、自身のこれまでの経験を語るすることができます。それが、当事者自身に一步踏み出す勇気をもたらすことができるのです。ピアサポーターとして経験を語るために、自身の障害や病気への理解を深めることや、実際にこれまでの葛藤をどのように乗り越えてきたのかを言葉にしてみることは、とても重要です。この研修で、ピアサポーターとして働く上での心構えを、一緒に学んでいきましょう。

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

2 ピアサポーターの基礎と専門性

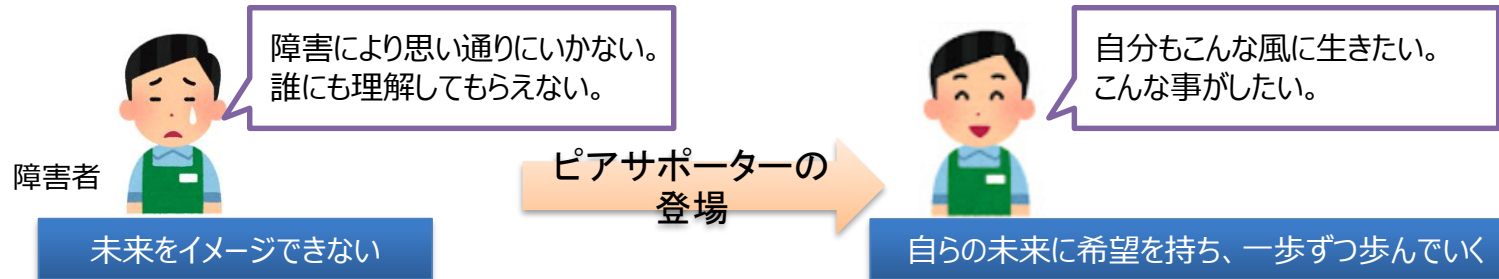
伝えたいこと

講義の構成

障害者ピアサポーターとしての専門性とは

□ ピアサポーターの専門性とは（これまでの振り返り）

- ロールモデルとして、当事者が未来をイメージする手助けをする



□ ピアサポーターの専門性を発揮するための基盤

- 理論や学問だけではない経験からもたらされる言葉が、当事者の勇気になる
(当事者と似たような経験を有しているピアサポーターならではの)

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

2 ピアサポーターの基礎と専門性

伝えたいこと	講義の構成
<p>「経験を振り返りストーリーリー」の大切さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <p>□ 基盤を意識して、<u>ピアサポーターとしての専門性</u>を発揮するために大切なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>➤ 障害にとらわれずにありのままの自分らしく生きてきた経験を振り返り、<u>言葉にしてみる</u> 具体的なエピソードや生活の工夫、手立てだけでなく、その時々^の気持ちも合わせて<u>言葉にしてみる</u>。</p> <p>➤ 必ずしも明確な言葉にならなくても、誠実に伝えようとする姿勢そのものが、当事者・同僚の専門職・組織に良い影響をもたらしていく</p> <p>□ <u>ピアサポーターとしての専門性</u>が有効に作用することで、ピアサポーターとしての支援の幅と質を高めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>➤ 経験に基づいた「傾聴」「共感」「受容」という特性を活かしながら、当事者とのより「対等」な関係性を構築できる</p> <p>➤ 似たような経験をしているからこそ、当事者のその時々^の気持ちや内面に起こっていることを具体的に想像でき、当事者の「思い」<u>を言葉にしてみる</u>ことをサポートできる</p> <p>➤ 当事者の内面へのアプローチを通して、障害を持つことによる偏見・先入観の解消や自尊心の回復を図ることができる</p> <p>※偏見・先入観については、社会から向けられるものだけでなく、社会からの偏見・先入観を自分自身に対しても感じてしまうこと</p>

東京都障害者ピアサポート研修 専門研修 概要

【演習①】3 ピアサポーターの基礎と専門性の振り返り、気づきの共有

<p>獲得目標</p>	<p>● <u>障害や病気のある者がありのままの自分らしく生きようとする</u>経験がピアサポーターの専門性の基盤であることを知る。その上で、経験に基づいた「傾聴」「共感」「受容」といった<u>ピアサポーターとしての専門性</u>を発揮し、当事者とのより「対等」な関係性を構築することで、ピアサポーターとしての支援の幅と質を高める。</p>
<p>設問</p>	<ul style="list-style-type: none"> □ 経験について、話してみましよう (例) 障害によって感じた困難、その時周りにはどんな風にしてほしかったのか、一歩踏み出すに当たってのきっかけ □ 人生の困難は、病気や障害に関わらず、誰にでもあるものです。障害の有無に関わらず、グループの皆で話し合ってみましよう

⇒ファシリットの留意点についても、是非ご意見お聞かせください。